

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500070		
法人名	伊藤建友株式会社		
事業所名	グループホームしんざんの里		
所在地	秋田県由利本荘市石脇字山の神11番地714		
自己評価作成日	令和4年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で温かい環境づくりに努め生活リハビリの中においても個別ケアに取り組み、利用者様が安全に生活出来るよう日々状態把握に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中で家族との対面での面会、更に地域との関わりにも難しい状況が続いている為、事業所内で出来る心身低下の予防を第一に話し合い、工夫しながら支援されています。予防対策を徹底し少人数に分けての紅葉ドライブも実施しています。心不安が強くなる利用者についてはその都度言動観察を強化しながら、日々一人ひとりに寄り添い場合によっては医療機関や家族と連絡を繰り返し行い、安心して過ごせるよう取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や玄関に掲示し、理念に基づき毎年職員より新年度を迎える前に提出してもらい年度業務目標を掲げ実践に努めている	会社(法人)の理念を基に職員一人ひとりが前年度の目標を振り返り、新たに支援目標を作成し、各自認識しながら実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前はボランティアによるミュージックケアや音楽の贈り物、避難訓練、年一回の納涼祭等で地域の方々との交流に努めていたが、現在はコロナ禍により交流できていない	地域との交流は厳しいこともあるが、避難訓練時には町内便りで知らせしたり、地域の方からは山菜の差し入れもあり、出来るだけ交流できるようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ボランティアや運営推進会議の参加者、避難訓練等を通じて認知症の方への理解や方法を伝えるよう努めていたが、現在はコロナ禍により直に発信できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、現在は書面開催にて利用者様や取り組み状況等を伝え、参加予定者へ後日配布し、意見をサービスに生かしている	書面での会議となっているが、委員には事業所の状況を報告し、意見や要望などがあれば運営に反映するようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面開催だが、運営推進会議にて事業所の実情やケアサービスへの取り組みを発信し、他困難事例については、電話や直に話し合い協力関係を築くよう取り組んでいる	支援困難事例など地域包括支援センターに相談することもあり、協力関係を築くようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化検討委員会是指針に基づいた内部研修含め3カ月に1回、身体拘束虐待防止委員会は月1回行い拘束をしないケアに務めているが、危険性がある時には施錠せざる負えない状況もある	毎月、委員会を実施、職員の共通認識を図り、拘束のないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会にて、身体や言葉の虐待に繋がる事例をあげての内部研修を行ったり、日々業務する中に、気づきがあれば、職員同士で虐待に繋がるであろう内容等をあげ防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーフレット等では目にするも、現在必要とする利用者様が少ない為、学ぶ機会は設けていないが、今後の為に学ぶ機会を持つよう検討したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に御家族と話し合い、入居契約の際にも契約書を通して説明している。不安や疑問についても聞き入れるよう対応している。また改定する際にも書面を通し都度説明し理解や納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望を受け入れる窓口を設置しており、苦情要望対策委員会にて対策を行い、全体会議にて情報共有し対応している	家族には電話などで普段の様子を伝え、気軽に話しやすいような雰囲気づくりに心がけ、意見や要望があれば運営に反映するようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて意見や提案を述べることが出来るよう配慮しており、他必要に応じ機会を設け話し合っている。	職員同志は日常にお互いに話し合う機会が多く、些細なことでも会議などでは活発に意見交換し、運営に反映しています。改善された事例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境や条件は整えるよう努めているが、各自がやりがいのある状況なのか、向上心を持っているかは個別に異なると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市からの外部研修にケアの実際と力量を把握しながら受講出来るような機会の確保をし、施設へ持ち帰り必要に応じて内部研修へ生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、機会は少なくなっているが、地域ケア会議や研修会、グループホーム協議会を通じて同業者と交流する機会を設けるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と入居前に面会し、会話する機会を設け関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に御家族と話し合う機会を設け、困っている事や不安な事、要望等聞き入れ関係づくりに努めている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にしながら、本人の出来る範囲での生活リハビリと、出来る範囲での自立や見守りをしながら、過度な介護にならないよう関係を築けるよう努めている		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に、面会の機会を設け、介護記録の開示をしながら近況報告をし、必要時は電話連絡にて家族と本人と施設側との関係を築いて行くよう努めている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の機会はコロナ禍により減少しているが、状況に応じ御家族との面会や外出、ドライブや近隣への散歩等行うよう努めている	近くの床屋さんに行ったり、また 直接来ていただく事もあります。窓越しの面会で聞こえづらい人にはカードに書くなど工夫し、馴染みの関係を築いています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人マイペースに過ごしてはいるが、作業やレクリエーション活動や行事、お茶の時間での会話等を設け、職員が間に入り交流作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人や御家族の要望に添えるように対応し、引き継いだ施設等とも情報提供し連携を図るようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活をする中に、本人からの希望や意見がある場合は記録として残し、定期的にカンファレンスを行い生活状況の確認や意見交換を行い把握出来るように努めている	日常の関わりの中で、気楽に話してくれる利用者が多く、困難な利用者からの把握は、要望委員会などで話し合って検討しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族やサービスの利用先から入居前の情報収集したり、入居してからの本人との会話からの情報を得、経過等の把握に努めている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録等で、毎朝のバイタル測定、日中や夜間の状況を職員間で情報共有し、把握に努めている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族との話し合いや全体会議での職員間にて意見交換し、現状に則した介護計画を作成している	居室担当職員の意見や、カンファレンスを通して本人本位の介護計画が作成されています。ケース記録もプランに添って記述されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に気づきの情報共有を行い、気になる点については申し送りや会議等で共有し支援するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により行動範囲が狭まれてしまっているが、近隣への散歩や買物、理髪店、ドライブへ機会を設け地域資源を利用できるよう努めている		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆ど入居前からのかかりつけ医院の利用継続しているが、御家族の希望にて変更する場合も対応するようにしている。また医療機関や薬局との関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している	通院介助は主に職員が付き添いますが、家族が付きそうこともあります。歯科・内科の訪問診療もあり受診が多いときは、同敷地内の事業所と連携しながら支援されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職は配置されていないが、受診・往診時には医師へ生活状況、身体状況を報告しており、受診が必要となる場合は医療機関へ相談し指示を仰ぎ連携を取っている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は状況報告し御家族と医師、担当看護師と情報交換行い連携を取るよう努めている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていない事は入居時に御家族へ伝えており、入居契約書類にも記載している。事業所が対応出来る範囲を超えるような重症化傾向にある状態や、施設での生活が困難と判断した場合は、入院対応となる事を伝えている	重度化や終末期には、家族や関係機関と連携しながら、職員一同方針を共有して支援されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ひやりはっと委員会での内部研修や講習会への参加をし知識や技術の習得に努めている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練として自主訓練や消防隊員交えての合同避難訓練を行い水害・火災・地震のいずれかを想定し行っている	消防職員の協力を得て、夜間火災発生を想定し、避難訓練を実施しています。終了時には署員の講評、防災委員会では反省点を話し合いながら、防災意識を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損なわないよう適切な言葉かけやさりげない対応するよう心掛けている。居室に訪室する際も、必要最小限としながらプライバシーを損ねないように努めている	日常的な言葉掛けにはお互いに注意し合いながら、また入室するときは必ずノックしてから、委員会では事例をあげて、振り返りながら取り組まれています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な支援をすることのないよう、自己決定をしやすいよう声掛けを行ったり状況に応じて確認しながら対応するよう努めている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の日常の生活のペースを損なわないよう職員側の都合や業務中心にならないよう支援している		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は本人の好みや着用したいものを選んでもらったりしている。また、散髪については本人からの要望や職員からの声掛けにて対応している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを作成する際、好みや季節を感じる食事を提供できるよう心掛けており、食事の支度についても出来る方には、下ごしらえや盛り付け配膳他、後片付けも共に行っている	献立は利用者の要望を聞きながら、職員と一緒におやつづくりやバイキング形式など変化に富んだ食事が提供されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の確認を行っており、好みの飲み物を提供し水分を摂取してもらうよう心掛けているが、食事や栄養については、本人の好みがあり、バランスが難しいのが現状である		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身ですすんで口腔ケアを心掛けている利用者もいるが、職員側からの声掛けに対し、面倒だ等の言葉を受けることある為、再三の声掛けにて行う利用者もいるが、都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に応じて、トイレ使用の声掛けやリハビリパンツの交換の声掛けにて対応している	チェック表を活用しトイレ誘導を、失禁の多い利用者には専門医に相談したり、一人ひとりの状態に応じて昼夜適切な用品の使用など、少しでも自立に向けた取り組みがされています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の確認をし、便秘薬使用や水分補給の声掛け、自らヨーグルトや牛乳を希望し調整して飲用している利用者もあり、改善に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日等は決めてはいない。自ら時間帯を希望したり、入浴の声掛けに入りにくいとの意思表示があり、他利用者様とのバランスも考え、状況に応じて再度の促しにより入浴する利用者様もいる。	可能な限り希望入浴を実施し、週3～4回入浴して保清に努めています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の気温に合わせて、居室内の温度を調整したり、本人の快適な環境を損なわないよう支援している。個別に休む時間を把握しながら、更衣や入床時の寝具介助やランプの明かり調整等含め見回りを心掛けている		
45		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時は勿論、新しく処方された薬についても、常に周知するよう心掛け、処方薬による副作用や身体状況に繋がる内容も介護記録や申し送りにて情報共有するよう心掛けている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを行ってもらい、生活する中で役割をここで把握し行っている。室内レクリエーションや作業、行事等で楽しんで頂けるよう心掛けている		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナ禍により、御家族との外出や自宅への外泊等希望に添えない状況に置かれている。状況に応じてドライブ等の外出は出来ている	天気の良い日には事業所周辺の散歩、また少人数に分けて遠出の外出し、外気に触れストレス発散する機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自身でお金を所持している方はいない為、小口金として施設で保管している。外出先での買い物の際には本人へ渡し支払いする事もある		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は希望する事はないが、電話については時折要望有り可能なかぎり対応している		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である食堂や廊下には季節ごとの花や壁飾り等を心掛けており、温度湿度も確認しながら快適に過ごせるよう配慮している。	感染症予防対策として特に換気に配慮しています。食堂兼居間からは間近にアカシヤなどの雑木林があり、季節々には様々な鳥(キツキ・カッコウ・ウグイス・キジなど)が見られ癒される空間となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂内には、椅子やソファを設置し、個々に過ごしやすい場所を選んで過ごしており、談話室も設けている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に寝具類はじめ、使い慣れた私物を持参できることを伝えており、個々に思い思いの物を使用している	一人ひとりの動線に配慮した家具類の配置など、安全で居心地良く過ごせるようになっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には個々の名前を、トイレや浴場にはそれぞれ表示しており、入居間もなく不安なく利用できている。施設内はバリアフリーの為、見守り対応等にて自立した生活を送れている		